

清流 ニュース

発行所
八王子市子安町 1-22-25
清流寺
清流ニュース編集室
電話 (042) 646-0287(代)
FAX (042) 644-1164
http://seiryuji.jp/org/

平成二十七年 度 総 祈 願
本 年 度 教 化 誓 願 達 成
佛 立 開 導 日 扇 聖 人 二 生 誕 二 百 年 慶 讚
佛 立 開 花 運 動 第 三 年 度 御 奉 公 成 就 之 御 願
晨 尊 三 十 三 回 御 諱 報 恩 御 奉 公 成 就
役 中 後 継 者 養 成 法 灯 相 続 促 進

日晨上人三十三回御諱報恩

日晨上人要語録

我執を破れ

仏教は無我の教えといわれ
るように、我執を破るところ
に一つのネライがあります。
したがって心の置き方を自
分にばかり置かず、自由自在
に他に移せるよう修行するこ
とが大事なのです。
まず法華経の御指南、日蓮
聖人のおぼしめしはどうかと
自分の心をそちらに移してみ
るのです。それを怠って自己
流の解釈をして、当宗の信心
はこれだという人があつたら
増上慢です。
また他の人々の立場になつ
て、すなわち懐に飛び込んで
折伏をする。その先方の心に

本山初灯明料の奉納

本山御初灯明料は、宗門の
三大奉納金の中でも最も大き
な力をもつもので、宗門運営
の資となります。
「一年の計は元旦にあり」と
申しますから、年頭にシツカ
リと財の功德を積ませていた
だき、一年間の経済安定のお
計らいを頂きましょう。

殊に、奉納額に比例して、
清流寺の所属する、東京中央
布教区へ還付金が交付されて
それをもとにご弘通活動が展
開されますので、一層、志を
篤く奉納させて頂きましょう。

平成廿八年度寒参詣

一月六日～二月四日
寒供養の申し込みは早めに！
一月六日より二月四日まで

年末年始の行事

平成廿八年度の寒参詣が実施
されます。
例年のとおり、寒供養もあ
りますので早めに申し込み願
います。

一月三日 十時
新年初総講・祝杯式及び
成人式
一月六日より 寒参詣開始
※新年三ヶ日の朝参詣は、
午前七時より八時迄です。

平成廿八年度成人式

新年初総講に平成廿八年度
の成人式が挙行されます。
該当者は、早めに寺務所へ
申し込みをして下さい。

日序上人御十七回忌報恩「奉公
御有志奉納者氏名(その七十二)
(教区順。敬称略。順不同)
二十七年十一月十三日現在
合計九三四名、一、七八三口

十二月三十一日 除夜法要

第一座 十九時
第二座 廿三時三十分
一年間の御礼をさせて
いただきますよう。

一月一日 元旦初御看經

第一座 除夜法要に引き続き
廿四時三十分迄
第二座 午前七時
羽村別院 新年初参詣
午後一時より



本月の御妙判

自浄其意

悪は多けれども、一善にか
つ事なし。譬へば多くの火あ
つまれども一水にはきえぬ。
(縮 1055 異体同心事)

この場合、善とは理に順ず
ること悪とは理に背くことで
す。理に背いたことが榮えて、
理にかなった事が其の為に圧

追をうけてしまふというよう
な事は断じてありません。そ
れは火に水をかければ必ず消
えると同じことです。尤もと
きには燃えさかした火に水を
注いだために、却つて火勢が
強くなるというような例もあ
ります。それは水の量が少

ないためです。水の量をふや
しさえすればいかに勢いの盛
んな火でも消えないというよ
うなことは決してない筈です。
苟しくも仏法を行ずるものは、
『諸悪莫作衆善奉行』という基
本的な偈文を奉じて一歩も退
いてはならないのであります。

「どんな悪でも行つてはならぬ
善をたくさん行いなさい」と
いう意味ですが、善を行お
うとするとき必ず妨げをうける
ために、これを貫く事が仲々
難しいので、うっかりすると

仏教の基本精神であるという
のであります。
「小悪ヲ軽シテ以テ殃無シ
ト為スコト莫レ水滴微ナリ
ト雖モ漸ク大器ニ盈ツ。凡
ソ罪ノ充滿スルハ小積ヨリシ
テ成ル。小善ヲ軽シテ以
テ福無シト為スコト莫レ。水
滴微ナリト雖モ、漸ク大器
ニ盈ツ。凡ソ福ノ充滿スルハ
纖々ヨリシテ積ム」(法句経)
と説かれています。
小善だからと云つて軽んじ
てはならないという事であり

ます。
開導聖人は
「かたちまがれば影までまが
る。撞木大なれば響きも大
なり。思ひまなをなれば善
神之をたすく。邪心おこれ
ば悪魔之に与力す。虫のい
きも天に通ず」(開導要決)
可能なかぎり、功德をつむ
というのが「積功累徳」の本
旨です。善をつみ、功德をつ
み、自らの心を浄化する迄、
日々の口唱信行に精進しなけ
ればなりません。